



四国霊場八十八ヶ所
巡拝用品のご案内

満願成就の旅
大師とともに

門前一番街

四国一番札所 靈山寺 門前
門前一番街



〒779-0236 徳島県鳴門市大麻町板東字西山田(靈山寺門前)
TEL.088-689-4388 FAX.088-689-2611
フリーダイヤル 0120-459137
しこくいちみな



■徳島市内より車で30分 ■鳴門インターより車で15分 ■板野インターより車で7分
■徳島空港より車で20分 ■鳴門公園まで車で30分 ■二番札所まで車で3分
■大谷焼の里まで車で5分

<http://www.narutokanko.co.jp/monzen/>



千二百年前の昔、
平安仏教の巨星として真言密教を拓き、
大きな足跡を残した弘法大師・空海。
その思想、人間観を学ぶ旅。



四国路の春は、菜の花とお通路さんの
鈴の音とともに訪れるといわれています。
老若男女をとわず、宗派をこえて
弘法大師ゆかりの四国霊場八十八ヶ所
阿波（発心の道場二十三ヶ寺）・土佐（修行の
道場十六ヶ寺）・伊予（菩提の道場二十六ヶ寺）・
讃岐（涅槃の道場二十三ヶ寺）をたどる
安らぎの巡礼旅。
お大師さんの深い心と
御接待に支えられながら、御経を唱え
いらずに御加護を念じながら切なる願い
いたむきな祈りを胸に秘め、欲を捨て
煩悩を転じて想いをかなえましょう。

豆知識

なぜ八十八ヶ所？

定説はないが、八十八という数字は
人間のもつ煩悩の数で、満願成就すると
すべての煩悩が断滅して成仏できると
いうことから定着したといわれている。
また、「米」の字に通じることから
五穀豊穡を祈る数であるとか
男42、女33、子供13の厄年を
合計したという説もある。

巡拝作法

- その一 霊場へ入ったら、まず口をすすぎ
手を洗う。
- その二 鐘楼で鐘をつく。
- その三 本堂、大師堂で所定の箱に納札、
写経を納める。
- その四 お灯明、線香をあげる。
- その五 ご本尊を念じ、合掌し、読経する。
- その六 納経所で所定の納経料を納め
納経帳などに納経朱印を
押してもらう。

お大師さんと二人旅 四国霊場を巡るにふさわしい巡礼装束



打つとは？

昔は、木の薄板でできたお札を
お寺に納めその板をお堂に打ちつけてきた
ことからお参りすることを「打った」という。

「打つ」のつく熟語

- 本打ち 八十八ヶ所を全部まわること。
- 順打ち 一、二、三と順にお参りすること。
- 逆打ち 三、二、一と逆順にお参りすること。
- 打戻る お参りした道をふたたび戻ること。
- 打ち抜 来た道を戻らず別の道から
次の札所へ進むこと。

長い道中、お大師さまの導きで
お願いごとや供養のために
巡拝・修行させていただくのになさわしく
歴史と伝統が息づく素朴で純粋な白衣をつけて
心身ともに清らかになりたい……。

お参り用 念珠

数珠の別称で、珠をひとつ繰るごとに
仏を念ずることから念珠と呼ばれるように
なつたと伝えられています。

巡拝のとき、念珠を手にかける場合、正式には
最初、右手は中指・左手は人差指にかけて
三四ほどすりあわせ次に左手にかけ直して
読経を行うといわれています。

お参り用念珠



802 星月菩提樹 瑪瑙入り 801 星月菩提樹 翡翠入り

お参り用念珠



805 紫檀 804 黒檀 803 鉄刀木

金剛杖

こんごうづえ
つえ袋

約一・五メートルの白木の杖で、
上部に四ヶ所の切り込みを入れて

五輪塔の形とし「地水火風空」の梵字と

「南無大師遍照金剛同行二人」の文字が
書かれています。この杖は、大師の分身で

お遍路さんにとって特に神聖なものとされ
手にすることによって大師と二人連れで聖地を踏み

大師の御加護のもと無事に巡拝できると伝えられています。

かつて、四国霊場めぐりが行脚の難行苦行の旅の時代には
お遍路さん自身の墓標をも意味していたといわれています。

このため今なおつえ袋とかけられるのが習わしとされています。

丸型の「上」・角型の「並」・般若心経を書いた心経杖、どれも丁寧に作りあげました。
上品な西陣織りのつえ袋とセットでお持ち下さい。

豆知識

同行二人とは？

長く厳しいお遍路道を歩いていけるのも
お大師様が常に一緒にいてくれるからで
あるという信仰に基づいたもの。
このことを忘れず巡拝していると
苦しいことがあっても「修行のひとつ」
として乗り越えられます。

811 並
810 上
809 心経杖

お参り用念珠



808 新象牙 807 新星月 806 新翡翠

輪袈裟

わけさ

816 輪袈裟
般若心経



輪袈裟金襴
815 朱色 814 紺色

輪袈裟



821 心経 820 緑 819 紫 818 緑(紋のみ) 817 紫(紋のみ)

袈裟のひとつで、巡拝のとき首にかける長方形の法衣のことです。
もともと法衣を簡素化した外出用の略法衣として誕生したと
伝えられておりお遍路さんは霊場を巡る修行者であることから
古来、法衣は必ずつけなければいけないとされてきました。
そこで、巡礼しやすいように、輪袈裟を用いるようになったと
いわれています。

輪袈裟正絹風



824 エンジ 823 緑 822 紫

持鈴

じれい

826 持鈴(小)
(直径約42mm)



827 持鈴(大)
(直径約48mm) 825 持鈴(ミニ)
(直径約31mm)

袈裟止め

けさどめ

輪袈裟が首からずれないように襟首に止めるものです。
煩惱をうちやぶり菩薩心を表す尊い法具・三鈷杵と
修行大師をデザインしたものとご用意しました。

遠く響きわたる澄みきった清らかな音色。
お遍路さんの代名詞ともなっており災難にあったとき、
鈴の音で知らせたり山里で野犬などから
身を守るために鳴らしながら歩き、道中の安全を
約束する魔除けの役割をはたします。
また、御詠歌を奉納するときにかかせないものです。



袈裟止め

831 緑 830 若草色 829 白 828 三鈷
835 黄 834 青 833 赤 832 金





お遍路さんの晴れ姿・正装であり、俗世を離れて、心が清らかであることを象徴する浄衣でもあります。その昔、交通が不便な時代には、貧富を問わず体力と気力が必要とされる苦しく困難な旅でした。ゆえに死装束として白い着物をまとい、巡拝した名残りと伝えられています。活動的でゆったりと着心地の良いズボンも用意しております。



837 白衣袖付
背文字入り
(サイズM、L、2L)



838 白衣袖無
背文字入り
(サイズM、L、2L)



840 巡拝用ズボン
(男女兼用)
(ジャージ)

839 巡拝用ズボン
(男女兼用)
(ブロード)



836 カラー大師
背文字入り
(サイズM、L、2L)



旅支度にはかかせない昔ながらの伝統装束
前掛け・手甲・脚絆・・・
古くから人びとに愛され続けてきた品々だけに
心地よい旅を送れるよう
知恵と工夫をこらした
ものばかりです。

841 前掛け



842 手甲



843 脚絆

ズボンのサイズ
(ウエスト)
◆M 60～73cm
◆L 70～83cm
◆2L 80～93cm
◆3L 90～103cm



844 すげ笠
(カバー付)

868 すげ笠(大)
(カバー付)



846 帽子女性用
サイズ M、L

845 帽子男性用
サイズ M、L

竹を丹念に編んで作ったすげ笠は、日よけ雨よけにはもちろん遍路旅にはかせません。笠の中心から四方に向かってつぎの四首の句が書かれています。迷故三界城(迷うがゆえに、三界は城にして) 悟故十方空(悟るがゆえに、十方は、空なり) 本来無東西(本来東西はなく) 何処有南北(何処にか、南北あらん) そして、その間に「同行二人」として、大師と二人連れの旅であることを意味する神聖な巡拝用品です。

快適な遍路旅をおくれるよう巡拝用の帽子をご用意いたしました。活動的で軽いパイル地を使用し、男性用と鐺の大きい女性用があります。



さんや袋は、経本・念珠・ローソク・線香など巡拝に必要な品を収納でき持ち運びにも重宝な小物入れのことです。片腕を通して肩から斜めにかけるのが正式といわれています。丈夫な帆布を使用したさんや袋(布製)と、防水のきいたナイロン製で大きめのさんや袋(上)の二種類をご用意しました。このさんや袋(上)は、納れ、ボールペン、灯光セットなどの納まるポケットがついており、巡拝バック等の便利さも兼ね備えた快適なさんや袋に仕上がっております。

847 さんや袋(上)



848 さんや袋(布製)



849 納札 (白札100枚綴)
全周まいりでは2冊必要です。



お参りのとき、ローソク・線香・マッチが
すぐに取り出せるよう、専用ケースに
全てを詰め合わせた便利でお得なセットです。
素材は、合成樹脂製で、大切な収納品を
しかりと守ります。また、ローソクは諸手の
ローソク立てが一般に比べてやや太いため
ローソクの穴もこれにあわせて作った
専用の品となっています。
また、さんや袋と燈光セット、二つの機能と
プラスしたさんや&バック。巡拝ローソク・
線香・納札・ペンなどを、コンパクトに
セットできる便利なかばんです。
小型のこさんや&バックはウエストポーチ
にもなります。



納札の色と巡拝回数
◆白札 (1回~4回)
◆青札 (5回~6回)
◆赤札 (7回~24回)
◆銀札 (25回~49回)
◆金札 (50回~99回)
◆錦札 (100回以上)



852 燈光セット (ケースのみ)
855 線香 854 巡拝ローソク 853 巡拝豆ローソク



904 さんや&バック 905 こさんや&バック

御影とは尊い画像を意味し納経したとき、諸寺から
授けられる御本尊とを記した御札のことです。
いただいた御札は、巡拝の尊厳な証であり
生涯の想い出の品となります。
西陣織で装丁した御影帳は四国霊場めぐりの
記念アルバムともいえます。
第一番から第八十八番に至るまで寺ごとの写真
札所番号・山号・寺名・御詠歌が書かれており
御札をファイルするだけで簡単に整理できます。

諸寺直筆の墨書・ご宝(朱)印もあざやかな
加持功德の証「納経用品」



■ご宝(朱)印料は
一ヶ寺三百円必要です。



879 納経帳
御影入付



納経帳和紙間紙入
874 紺色 875 朱色 876 緑色

諸寺でお参りをすませた後
納経所にて御本尊と寺の名称を書いてもらい
ご宝(朱)印を押してもらったための綴本のことです。
かつて一字一字、心をこめてしあけた字経を札所に奉納し
その証としてご朱印を授けられたのに始まるといわれており
大師のご縁で巡拝結願できた記録として
仏壇の引き出しなどに納めて保存し
お遍路さん自身が来世の旅路に持参したりするためのものです。



■ご宝(朱)印料は
一ヶ寺二百円必要です。



864 納経用白衣
カラー大師御詠歌入り
(フリーサイズ)



865 納経用白衣
カラー大師御詠歌入り
(フリーサイズ)

四国霊場札所全寺の御詠歌が書かれており
巡拝のとき、納経所にてご宝(朱)印を押してもらい
お遍路さん自身が来世の旅路に着るためのものです。
一心に祈りをささげ御本尊の功德をわかったいただいた衣は
このうえもない歓びであり何にもかえがたい至上の宝物でもあります。



納経帳水墨画入
877 紺色 878 黄色



四国八十八ヶ所納経軸
NO.110 六字名号



四国八十八ヶ所納経軸
NO.623 大師御宝号(智等書)



四国八十八ヶ所納経軸
NO.676 大師入十三佛



四国八十八ヶ所納経軸
NO.612 阿弥陀如来



四国八十八ヶ所納経軸
NO.615 修行大師



四国八十八ヶ所納経軸
NO.650 大師像



四国八十八ヶ所納経軸
NO.624 釈迦如来



四国八十八ヶ所納経軸
NO.688 本金箔押天蓋大師

諸寺直筆の墨書ご宝(朱)印もあざやかな四国霊場めぐり
加持功德の証「納経軸」



四国八十八ヶ所納経軸
NO.656 大師像



四国八十八ヶ所納経軸
NO.630 龍金天蓋大師

一筆ごとに心をこめてお作りした格調高く慈愛に満ちた最高級品をとりそろえました。
諸寺でお参りをすませた後、納経所で御本尊と寺の名称を書いてもらい
ご宝(朱)印を押してもらったための御軸のことでです。
全寺のご宝(朱)印をいただいたら表紙装をほどこして掛軸にし
大師と結願できた信仰礼拝の対象として仏間や床の間などに奉安し、真言念仏を唱えます。
また、表装したのを箱書に総本山高野山の墨書をいただき家宝として
子孫代々に伝えるお通路さんも数多くお見受けします。



■ご宝(朱)印料は
一ヶ寺五百円必要です。



経本

教理などを説きつづつた書物の
経本は、巡拝するときは諸寺と
とわす本堂でお灯明・線香・賽銭を供え
御本尊・弘法大師をひたすら念じながら合掌し
開経偈・般若心経・御本尊真言・光明真言・
御宝号・廻向文・御詠歌などを読経します。
その後大師堂でも同じく読経を行います。
このとき必要とされる経本二冊をご用意しました。



経本 866
奉納経本御詠歌入り

十善戒とは

遍路における禁じ事
不殺生 生き物を殺さない。
不偷盗 盗みをしなない。
不邪淫 ふしだらなことをしない。
不妄語 嘘を言わない。
不綺語 へつらいをしない。
不悪口 悪口を言わない。
不両舌 二枚舌を使わない。
不慳貪 貪りの心を持たない。
不瞋恚 ねたまない。
不邪見 邪心を持たない。
これは、仏教の教えで
人がしてはいけないこと。
巡礼中、
守るような心がけてみましょう。
心安らかに参りましょう。

開経偈

無上甚深微妙法 百千万劫難遭遇
我今見聞得受持 願解如来真实義

般若心経

般若心経

観自在菩薩。行深般若。波羅蜜多。時照見五。蘊皆空度。一切
苦厄。舍利子。色不異空。空不異色。色即是空。空即是色。
受想行識亦復如是。舍利子。是諸法空想。不生不滅。不垢不淨。
不增不減是故空中。無色無。受想行識。無眼耳鼻。舌身意。無色

声香。味触法。無眼界。乃至。無意識界。無無明亦。無無明尽。
乃至。無老死亦。無老死尽。無苦集滅。道無智亦無得以。無所得
故。菩提薩埵依。般若波羅蜜多。故心無罣。礙無罣。礙故無有。
恐怖遠離。一切顛倒。夢想究竟涅槃。三世諸佛依。般若波羅蜜多。
故得阿耨。多羅三藐。三菩提。故知般若波羅蜜多。是大神呪。
是大明呪。是無上呪。是無等呪。能除一切。苦真實不虛。故
説般若波羅蜜多。呪即説。呪曰。羯諦羯諦。波羅羯諦。波羅僧羯
諦。菩提薩婆訶。
般若心経。

光明真言

おん あぼよや べいろしゃのう まかぼたら まに はんどま

御宝号

南無大師遍照金剛

廻向文

願くば この功德を以つて 普く一切に及ぼし 我等と
衆生と 皆共に仏道を成ぜん

ご本尊の真言

本堂には、
ご本尊が祀られています。
そのご本尊には
それぞれのご真言が
あります。

光明真言

仏様全部に通じ、
そのご加護とお導きを
いただく真言です。

御宝号

「南無大師遍照金剛」と
お大師様の
名前を唱えます。
「南無」とは、帰依すること。
「遍照金剛」とは、
お大師様が
唐の都長安の
恵果阿闍梨和尚から
与えられた灌頂名です。

廻向文

自分も、他の人々とともに
仏道を成就することを
願う言葉です。
このほかに御詠歌を
唱えることもあります。
いづれも心を込めて
お唱えするのが大切です。



NO.113 隅立二曲屏風
輪鋒羯摩桐巴紋金襴使用(金具付)
寸法:高さ約168cm(5尺5寸5分)×巾約69cm(2尺3寸)
両開き巾約138cm(4尺6寸)
160,000円(税別)



NO.114 御影枕屏風
(蜀江織錦金襴使用/金具付)
寸法:高さ約65cm(2尺1寸5分)×巾約91cm(3尺)両開き巾約182cm(6尺)
55,000円(税別)

法輪紋金襴

仏教の紋をデザインした濃紺色の新しい裂です。



NO.53 綿中金法輪紺地金襴
(軸先:本金メッキ金軸)
48,000円(税別)

焦茶地桐巴紋飛金襴

弊社独自の裂で高野山金剛峯寺の寺紋を織り込んでいます。



NO.81 正絹飛金襴
(軸先:本金透入金軸)
85,000円(税別)
NO.80 綿飛金襴
(軸先:本金メッキ金軸)
45,000円(税別)

蜀江織金襴

古代の裂を復元した織物です。



NO.59 蜀江織正絹合金襴
(軸先:本金透入金軸)
80,000円(税別)
NO.60 蜀江織綿中金襴
(軸先:本金メッキ金軸)
45,000円(税別)



見本
NO.116

額装 (アクリルガラス使用/取付け備品付)寸法:高さ約61cm(2尺)×巾約170cm(5尺6寸)
NO.111 蜀江織綿金襴 (緑:隅丸黒ツヤ有) **50,000円(税別)**
NO.112 蜀江織正絹金襴 (緑:特上隅丸黒ツヤ有) **70,000円(税別)**
NO.115 蜀江織正絹金襴 (緑:特上隅丸アカタス塗) **85,000円(税別)**
NO.116 蜀江織正絹金襴 (緑:特上隅丸金色) **90,000円(税別)**
NO.117 特別蜀江織合金ツヤ消正絹金襴 (緑:最高級隅丸) **110,000円(税別)**

紺地蓮花紋金襴

一番多く見られる一般的な裂の仕上です。



NO.55 正絹本金襴最高級品
(軸先:本金透水晶品代用入金軸)
150,000円(税別)
NO.56 正絹合金襴
(軸先:本金透入金軸)
80,000円(税別)
NO.57 綿中金襴
(軸先:本金メッキ金軸)
40,000円(税別)
NO.58 並金襴
(軸先:金軸)
35,000円(税別)

二丁遠州小菱牡丹

落着いた裂で正絹どんすの織物です。



NO.54 正絹どんす小菱牡丹
(軸先:本金透入金軸)
70,000円(税別)

輪鋒羯摩桐巴紋金襴

弊社独自の裂模様で墨に近い紺色で落着いた重厚な仕上りです。
高野山金剛峯寺寺紋入り。(意匠登録済)



NO.50 正絹本金襴最高級品
(軸先:本金透白檀入金軸)
170,000円(税別)
NO.51 正絹合金襴紺地
(軸先:本金透水晶品代用入金軸)
90,000円(税別)
NO.52 綿中金紺地
(軸先:本金メッキ金軸)
50,000円(税別)



満願おめでとうございます。
厳しく、楽しい霊場巡拝の記念に法要などの行事のお飾りに
また、大切な方へのかけがえのない贈り物として納経軸の表装をお勧め致します。
門前一番街でお預かり致しました納経軸は、二百年の歴史と
伝統をもつ表具処「竹林堂」が、一幅一幅手作りで丹精込めて表装し
家宝に相応しい掛軸として皆様のお手元にお届け致しております。
ご希望の方は、お気軽にお電話下さい。
詳しいカタログ、価格表等ご送付致します。
(価格は平成27年10月時点での価格です。)